

---

# 中年男とチョコレート戦争。

乃普介

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

中年男とチヨコレート戦争。

### 【Nコード】

N7601X

### 【作者名】

乃普介

### 【あらすじ】

とある真夏の日の出来事。中年男はチヨコレートをかけ、なにかと戦争するようです。

暑い夏の昼間。一人の男が冷蔵庫の前で俯いていた。その顔に浮かんでいるのはまさに絶望を見た男だけが浮かべる顔。

早い話、チョコレート stok が切れたのである。男はチョコレートが大好きだったのだ。

男は焦った。これから大事な仕事があるのである。男はいつも仕事の前にチョコを食べないと発作が起こり最悪死に至る、と思っていたのだ。

しかし、何度確認してもチョコは無い。そうならば男に残された行動は一つしかなかった。

男はまず前を向いた。俯いている場合では無い、これは戦争だ。そう、stok をしっかりと確認しなかった弱い自分との戦争なのだと思い立ったのである。

男は財布を手にとり、その中に100円玉が入っているのを確認して外に用意してある愛自転車にさっそうと乗り込む。

その顔つきはさっきまでの俯いていた男のものでは無かった。まさしく武者、侍のそれであった。

マウンテン  
自転車のペダルをこぎながら考えた。

まず、どこへ向かうかだ。男はいつもチョコレートを買うのに近所のコンビニエンスストア、Kを利用していた。

今回もそのコンビニエンスストアを利用したいところなのだが、そこは一つの事情から行く事が出来ない。

そのコンビニエンスストアにはいとしの夏子（38）ちゃんが働いているのだ。

もしこんな時間にコンビニエンスストアに行くとでも思われたら、立ち直れない。チョコレートを買いに行くのだから尚更である。

しかしそれならどこに向かうのか。選択肢は二つ、近所の駄菓子

屋、スーパー、友人の家、である。

男はそれぞれ場所を考えた。ここからの近さでいうと駄菓子屋<スーパー<友人の家、である。

手に入るなら早い方がいい、そう考えた男はすぐさま近所の駄菓子屋へハンドルをきった。

これから襲い来る困難を知らずに、である。

駄菓子屋、三唱本舗までは自転車でおよそ10分。たいした距離ではなかった。

しかし今は真夏の真昼。気温38度はゆうに越えているかのような猛暑の日である。男の体力の消耗は激しかった。

男は汗をたらしながらこぎつづけた。そしてついに見つけた。駄菓子屋を。

小さな木製の古めかしい家屋、消えかかった三唱本舗の看板。そして、たくさんの、子供達……。

男は、その子供達を見た瞬間まさしく楽勝だと思って戦ったら相手が孔明だった時のような、殺さないでやると言われて安心していたら心変わりされたようなそんな顔をした。

普段、たとえばコンビ二に子供達が居てもとくになにも気は使わない。しかしそこは駄菓子屋である。まさしく子供達の城。なにをされるかわからない。

しかも今の自分は陽炎がのぼるような道を走ってきたため汗でどろどろだ。こんな姿で入って行ったら子供達にすぐ敵視されても可笑しくない。

男は迷った。念願のチョコレートはすぐそこである。しかし、いま無謀ともとれる攻撃をするのは得策なのか……。

子供達が不審がつてこちらを見た。その手には拳銃……。しかもそれはどうやら駄菓子屋で普通に売っているようである。男は丸腰、襲われたらまず命は無い。

男は悩んだ。悩んだが、万全をきしてスーパーへ向かった。あそ

こはすでに完全に子供たちの手の中、拳銃を流しているところからも一目瞭然である。そんなところへ行ったところでチョコレートを買ってくれない危険性があつたのだ。

もうそろそろ3時と言ったところか。男はペダルをこぎ続けた。途中自動販売機で水分補給し、体力の回復を図ったが、しかしそれでも男は消耗しきっていた。

スーパーまであと少し……しかし、そこで男は一つの異変に気がついた。

居ないのである。中学生達が。今は3時、ここは中学生達の通学路。いつもならこの時間帰宅途中の中学生達が居るはずだ。

しかし、居ない。なにかの陰謀か？と男は考えた。自分を会社へ行かせないライバル社の策略かと考えたのである。

おとこは念のため、裏ルートを使うことにした。大通りを使わないのではない。歩道を使わない、そう車道を走るのである。

通常自転車は車道の左側を走るのがルールである。つまり法的な問題は一切無い。

ここなら裏道からの中学生達の奇襲を避けることができる。まさしく完璧な作戦であつた。

しかし、一点男は気がついていないことがあるのだが、みなさんは気がついても言わないであげてほしい。

もちろん、面白いからである。

男はスーパーについた。スーパーの中はまさに天国である。熱く沸騰しそうな体を冷やしてくれる。

スーパーを利用する奥様方はいきなり現れた汗だくの男に怪訝な視線を浴びせたが、男はそれどころでは無かつた。

男はすぐにお菓子売り場へ向かう。子供たちや奥様の視線をよそにすぐさま板チョコを手に入れた。

その美味しそうな香りに足が止まりそうになったが、そこで満足

してはいけない。

すぐに男はレジへと向かった。幸運にもレジは空いている。男には幸運だった。幸運すぎた。この幸運がこのあとの悲劇を生み出したのかもしれないと男は考えたが、全く関係無いだろう。

レジの人にチョコを出す前に男は財布の取り出し、100円玉を出そうとした。

しかしその瞬間男の頭をいまだかつて走ったことの無いほどの電流が走った。まさに雷である。

100円玉がないのだ。当然である。さっき自動販売機で水分補給したのだから。

しかし、男はそのことに気づかない。周りを見渡す。そこに見える奥様が、子供たちが、レジの人がみんな敵に見える。

男はチョコレートを放り投げ、逃げ出した。ここに居てはいけない、本능がそう告げたのだ。

すぐに自転車に乗り込み次の場所へ向かった。ここでなければもう駄目である。友達の家はもうすぐそこであった。

友人はスーパーのすぐ近くのアパートに住んでいた。一緒の会社に勤務しており、昔から仲がよかった。

男は階段を駆け上がりドアを叩く。友人はすぐに出てきた。

しかし友人はすぐに驚いて後ずさりした。

「お、おいお前……」

男の服は汗でベトベトで、もうすでに男の顔には最初の武者の面影は全く無い。不安に怯えきった顔だ。

「チョコを……チョコレートをくれ……」

「は、はあ！？チョコがどうしたんだよ！とりあえず水、水とってくるから」

「チョコだ！チョコをさつさとよこせ！！」

友人には全く状況が理解できなかった。友人は男がチョコ好きなのは知っていたがなぜそこまでチョコに必死になっているのか。

友人はなにか恐ろしくなつて冷蔵庫に入っていたチョコレートを持ってきて渡した。

「ほ、ほらチョコ。どうしたんだお前？ 顔色悪いぞ……」

しかし声をかける友人に男は感謝の言葉も無くすぐにチョコを握り締め、自転車に乗り込む。

「お、おい！ 一体どうしたんだよ！」

友人が追いかけた時にはもうすでに男の姿は無かった。

男は家に帰ってきた。もうすでに体力は限界である。汗はただただ流れ続け、はやく水分を補給しなければ倒れてしまいそうであった。

しかし、男はすでにチョコレートのことしか頭に無かった。男は友人の家から帰ってくるまで、チョコを懷にいれ、必死に守ってきたのだ。

迫り来る自動車の群れ、中学生たちの恐怖、子供達からの視線……すべてを乗り越えついに手に入れたチョコレート。

しかし、懷からチョコレートを取り出した男は地獄を見ることがなった。

あんなに暑い中、長い間しかも懷に入れていたのである。チョコレートはぐちよぐちよに溶けていた。

男は絶望の絶叫をあげ、気絶した。暑い日のチョコレートの管理はみんなも気をつけるようにしよう。

翌日の朝刊にとある記事が載った。なんでも男が脱水症状で倒れたそう。

その男は玄関で溶けたチョコレートを握りながら気絶しているところを発見されたらしい。

病院で目が覚めた男は「チョコを食べないから倒れたんだ！ それに仕事か！ 仕事か！」とバカなことを言っていたらしいがそもそもその日は日曜日であり会社は休みであった。中学生が居なかったり

会社の同僚が自宅に居た時点で気がつくべきであった。

全く、最初から最後までなにと戦っているのか、よくわからない男だ。という話であった。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7601x/>

---

中年男とチョコレート戦争。

2011年10月22日03時18分発行